

メッセンジャーズ・オブ・ピース事業取り組み概要

メッセンジャーズ・オブ・ピースは、世界財団から資金提供を受け、「ギフト・フォー・ピース」を更に発展させた「平和運動への取り組み活動」として、2011年9月に始まった世界スカウト機構（WOSM）が提唱する活動です。この活動を通し、スカウトや指導者が平和について考え、戦争や環境破壊、差別、いじめ等、平和を阻害する問題への意識を高められるような活動を実践し、スカウティングの「よりよい世界を創ろう」という大きな理念を達成することを目指します。

1. 実施期間

2011年から10年程度

2. 取り組み方法

通常のスカウト活動の中での取り組みとする。

3. プロジェクト応募区分（プロジェクトの詳細は別紙資料参照）

- (1) グローバルネットワーク（マップ・オブ・プロジェクト）
プロジェクトをネット上に公開する
- (2) グローバルサポートファンド
財政支援希望プロジェクトとして応募する

4. プロジェクト実施単位

個人、班、隊、団、地区、県連盟、アドホックグループ

5. プロジェクト実施（申請）責任者

個人・班・団：団委員長

地区：地区委員長

県連盟：都道府県連盟理事長

アドホックグループ：メンバー所属の隊や団、地区および都道府県連盟間で調整する。

6. プロジェクト登録の手順

- (1) グローバルネットワーク（マップ・オブ・プロジェクト）
プロジェクト実施責任者が、WOSM 所定のフォームで直接登録する。
- (2) グローバルサポートファンド
 - ①所属の都道府県連盟を通し日本連盟に申請する。複数の県連盟に所属するメンバーで編成されたアドホックグループで実施する場合は、関係県連盟で調整する。但し、プロジェクトの審査結果の通知および支援金の振込み等その後の手続きについては、日本連盟とプロジェクト責任者とで直接行なうこととする。
 - ②プロジェクト企画書は、英文と和文で作成する。
 - ③申請されたプロジェクトを日本連盟からアジア太平洋地域に申請する。
 - ④プロジェクトについては、申請責任が審査基準を踏まえ、十分に精査した上で日本連盟に申請する。

実施単位	個人・班・団	地区	県連盟	アドホック
責任者	団委員長 (事業承認)	地区委員長 (事業承認)	理事長 (事業承認)	メンバー所属の隊や 団、地区および都道府
県連盟の承認	理事長	理事長	理事長	県連盟間で調整

(3) その他

ローバースカウトまたはベンチャーは、加盟員以外のメンバーと活動することがあることから、加盟員以外の参加も可とする。

この件についてのお問い合わせ：日本連盟事務局 教育部事業・プログラム課
Tel 03-5805-2634 Fax 03-3830-3678 E-mail program@scout.or.jp

メッセンジャーズ・オブ・ピース 「グローバルサポートファンド」申請手順

日本連盟からのメッセンジャーズ・オブ・ピース関連の配付資料および世界スカウト機構のホームページに掲載されている事項をお読みいただき、メッセンジャーズ・オブ・ピース事業およびプロジェクト内容についてご理解した上で申請してください。

手順1：申請者

所定の申込フォームに必要事項を記入してプロジェクトの申請を行います。

○書式は、世界スカウト機構のホームページからダウンロードします。

○英語の申請書と日本語の申請書の2つを作成します。

○別紙（表紙）を申請書に添付して申請します。

- ・実施単位が個人・班・団にあつては、団委員長に提出します。
- ・実施単位が地区にあつては、地区委員長に提出します。
- ・実施単位が県連盟にあつては、理事長に提出します。
- ・実施単位がアドホックグループの場合は、メンバー所属の隊や団、地区および都道府県連盟間で調整し、事業承認者（責任者）を決めます。

手順2：事業承認

1. 申請者から提出された申請内容を下記の視点で審査して承認します。（別紙用紙に承認のサインをします。）

- ・サポート対象の5つの分野に合致しているか？
- ・実現可能なプロジェクトか？
- ・継続可能性があるか？（資金提供後も継続可能か？）
- ・実現可能な目標が設定されているか？
- ・地域社会や他のグループと連携しているか？
- ・地域社会のニーズが反映されているか？

2. 別紙に承認のサインをして、県連盟へ提出します。

- ・実施単位が個人・班・団にあつては、団委員長が承認します。
- ・実施単位が地区にあつては、地区委員長が承認します。
- ・実施単位が県連盟にあつては、理事長が承認します。
- ・実施単位がアドホックグループの場合は、メンバー所属の隊や団、地区および都道府県連盟間で調整した方が承認します。

手順3：県連盟の承認

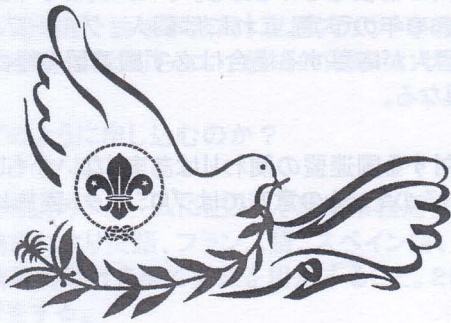
各実施単位から申請された事業内容を再度確認し、県連盟理事長が承認し、日本連盟に提出します。

手順4：日本連盟の手続き

県連盟から提出された申請書はNSOコーディネーターを通じて地域事務局に申請します。

・申請金額が2万5千ドル以下の場合は、随時申請します。

・申請金額が2万5千ドル以上の場合は、審査日が年4回（2月28日、3月31日、8月31日、11月30日）設定されています。



Messengers of Peace

メッセンジャーズ・オブ・ピースとは？

メッセンジャーズ・オブ・ピース構想の目的は世界中の青少年がスカウティングの理念である「より良い世界を創る」ことに取り組むよう動機づけることにある。

メッセンジャーズ・オブ・ピースは平和を構築する目的で世界中のスカウトが個人としてグループとして、また各国連盟として関わる事の出来る10年間のプロジェクトである。

100周年の年に実施された「ギフト・フォー・ピース」プロジェクトの成功を受けて創設され、2011年9月28日メッセンジャーズ・オブ・ピース事業開始記念式典がサウジアラビアの首都ジェッダで開催された。この式典においてサウジアラビア文部大臣ファイザル王子からカールグスタフ・スウェーデン国王に3,700万ドルの小切手が手渡された。

メッセンジャーズ・オブ・ピースはグローバルネットワークとグローバルサポートファンドの2つで構成される。

A. MoPグローバルネットワーク

世界中のスカウトは何らかの形で地域における平和のために活動している。いじめを防止して学校内の問題を解決したり、分裂したコミュニティをつなぎ合わせたり、保健衛生に関する基本教育を指導したり、自分の地域での環境汚染問題を解決したりなどである。

最先端のソーシャルメディアを活用しプロジェクトをインターネットを通じて登録できる。登録するとGoogleマップ上に赤い点となって表示され、他のスカウトがその赤点をクリックするとそこで実施されているプロジェクトの内容がわかるようになっている。

世界中のスカウト達がプロジェクトの情報を交換したり、協力したりすることでネットワークが広がり、最終的にはGoogleマップが赤い点で埋まることを目指している。ギフト・フォー・ピースは110カ国、1,000万人が参加したが、MoPは2022年までの10年間で2,000万人(以上)の参加を目標としている。

グローバルネットワークにはすでに12,000のプロジェクトが登録されている。

B. グローバルサポートファンド

グローバルサポートファンドには事業全体への寄付3,700万ドルの内、2,500万ドルが提供されている。

この基金は各国連盟の能力を強化し、より貧しい国々のスカウトが地域に変化をもたらす活発な活動の実践を可能にする。この基金は地域スカウト事務局を通じプロジェクトマネジメントツールによって管理され、これを用いて世界事務局と世界スカウト財団はプロジェクトの運営をサポートする。

APR 地域では MoP の 4 つのプロジェクトが始められている。

スリランカでは内戦後のタミールとシンガレーズのスカウトによる融合のためのキャンプが4ヶ所で行なわれた。

インドではパキスタンとインドのローバースカウトによる融合のためのキャンプがガドゥプリで11月16日-20日の日程で開催予定である。インドネシアでは地域保健衛生の啓蒙プロジェクトが地方の村で行なわれている。また日本では2011年3月の地震と津波の被害地域の再生支援に使われている。

それぞれが計画するプロジェクトには費用のかからないものもあれば、費用が必要なものもある。それに対して今回の寄付20億円を20年間で提供するというもの。基本的には年間2億円で10年の予定。これには個人、グループ、各国連盟、地域レベル、世界レベルだれでも応募することができる。ただ個人が応募する場合は必ず国連盟を経由する必要がある。応募の方法は金額に応じて、応募方法、報告方法等が異なる。

個人が直接インターネットを通じて参加できるということで、ネットワークに対する国連盟の関わりはあまりないかもしれないが、個人が登録したプロジェクトが実際に実行されることに意義があるので、その意味ではプロジェクト実施に対して国や県、地区、隊、団などの見守りと支援が必要と思われる。

背景

2001年の開始から、スカウト運動のギフト・フォー・ピースは110カ国1,000万人のスカウトが地域コミュニティにおいての平和活動を始めるきっかけとなった。エルサルバドルではスカウトはストリートギャング問題に対応し、ニューオーリンズではハリケーンカトリーナ以後の復興に係わった。レバノンではフェニックス・オペレーション、アフリカのグレートレイクス地域では部族間の平和教育に目覚ましい成果を上げている。シエラレオネでは悲惨な国内戦争後のコミュニティの再建に、アイルランドではカトリックとプロテスタントのスカウトが行動を共にし、ハイチではスカウトが莫大な被害をもたらした地震の救助、救援に大きく貢献した。

「ピース」とは何を指すのか？

スカウト運動における平和(ピース)には三つの側面がある。

1. 個人として: 調和、正義、平等
2. コミュニティとして: 敵意、暴力的紛争の対極としての平和
3. 人類と環境との関係として: 治安、環境との良い関係

サポートファンドは何を支援するのか？

サポートファンドは次の5分野での支援が考えられている。

1. 個々のピースプロジェクトの支援
各国連盟はプロジェクトを新たに開始するために外部からの支援を求める場合、または既存の良いプロジェクトをインパクトを上げて更に大きな物にするための支援を必要とする場合、サポートファンドに申し込む事が出来る。
2. 今まさに困難な状況にある青少年の支援
各国連盟は困難な状況にある青少年が地域コミュニティの支援に必要な技能を身につけるため、資金援助を申し込む事が出来る。
3. 対話を通した問題解決のトレーニング
地域コミュニティにおける平和と安定に関する様々な問題は相互コミュニケーションのあり方に起因する。地域コミュニティの中で平和のメッセージを効果的に広げようとする時、スカウトは自ら提案し解決策を実行するのと同じくらい、要望を聞き取り、判断するという対話技能をスキルアップさせる必要がある。このための支援をサポートファンドに申し込む事が出来る。
4. 能力強化
地域において成果を上げたプロジェクトを拡大して、更に多くの人々にインパクトを与えるには各国連盟のプロジェクト運営能力の強化が必要である。各国連盟に対してのこのための支援が提供される。
5. メッセンジャーズ・オブ・ピースのグローバルネットワーク構築
一連盟、一地域によって発案されたプログラムの拡大化のためには、その経験や専門知識、考え方の共有が国レベルで、また地域レベルで共に欠かせない。このための人員と知識の交換を促進するための支援が可能である。

サポートファンドはこれらの5分野での支援を行い、経済的に厳しい状況の国連盟も、より影響力を持つメッセンジャーズ・オブ・ピースになる事が出来る。

誰が基金を受け取れるのか？

各国連盟、地域事務局、世界スカウト事務局が提案を提出できる。ローカルレベルからは必ず各国連盟を通して提出しなければならない。経済的に厳しい状況の国連盟に配慮がされる。

どのように申し込むのか？

申し込みフォームに記入し、地域事務局を通して申し込む。25,000ドル以下の助成金の場合、申請書は各地域事務局により英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、アラビア語の何れかで記入されること。その内、概要は地域事務局の助けを得て英文を用意すること。25,000ドル以上の場合、申請書は英語のみ。地域事務局は翻訳の手助けをする。

申請の時期

25,000ドル以下の助成金の場合、申請書送付はいつでも可能で、約1カ月で結果が分かる。25,000ドル以上の場合、年4回の申請時期がある。2月28日、5月31日、8月31日、11月30日。地域事務局、委員会の審査を経て約3カ月で結果が分かる。すべての提出文書については7日以内に受け取りの連絡をする。

どのように審査されるのか？

申込書は以下の基準で審査される。上記のMoP基金の5分野に沿った内容であることが求められる。地域・世界の調査チームによって以下が尋ねられる。

- どのように地域での必要性を認識したのか。
- 実行可能なプロジェクトか。
- どのような効果が得られると考えるか。

調査チームは以下も考慮に入れる。

- 継続可能なプロジェクトか？助成金が無くなった場合継続できるか。
- スカウト教育法を活用しているか。
- 単独ではなく、パートナーシップを結んでいるか。
- プロジェクトのリーダーシップ
- 実現可能な目標かどうか。

誰が審査するのか？

25,000ドル以下の場合、地域審査会で審査される。25,000ドル以上の場合、地域審査会での審査ののち、合同審査委員会で審査される。審査委員長と委員1名が世界スカウト財団から選ばれ、世界スカウト事務局から1名とサウジアラビア連盟から1名が合同審査委員会に出席する。

どのように知らされるのか？

申請が通らない場合は地域事務局から理由が告げられ、希望が有れば再提出出来る。申請が認められた場合は連絡が有り、スカウトウェブサイトプロジェクトを載せる事が出来る。

助成金の送金方法は？

申請が認められた場合50%が各国連盟の口座に振り込まれる。報告書の提出後40%が振り込まれ、残りの10%は最終的な決算報告がなされてから支払われる。

報告書の提出について

すべてのプロジェクトにおいて終了後に報告書の提出が求められる。様式は一般的なもので、状況に応じて写真などをつける。報告書用の資料準備のための予算をあらかじめ計上するか、別に助成金を申請できる。報告書の提出がなされないと、同一プログラムの新たな助成金は認められない。

